

## わからない友だちに教えてやる少年だった

小学校時代の我妻 榮先生は、成績優秀で先生の教えることなど、なんでもすぐわかってしまうので、しょっちゅう席を離れては、わからない友だちのところへ行って教えていたそうです。ですから、学校での生活態度だけは「良くてきた」ではなかったそうです。ところが4年生になって担任が赤井運次郎先生にかわってからは、「良くてきた」になりました。その訳を母親のつるさんが赤井先生にきいたところ、赤井先生は「子どもというものは、いいところを伸ばすことが大事なんで榮君は行儀が悪いのではなくて、勉強が分かりすぎて、それを分からない友だちに教えたがっているだけなので、私も助かるヨ!!」といったそうです。我妻先生は、その後赤井先生をずうーっと、尊敬していました。

〈絵は、子ども新聞でお馴染みの那須野浩さんに描いてもらいました〉

おいでよ!! 記念館へ

あとでも詳しく説明しますが、我妻榮先生は米沢市の名誉市民です。名誉市民とは、日本全体で又は世界でも活躍された方や郷土発展のために尽くされた方に贈られる称号で、現在三人おられます。我妻榮先生は法学博士で、特に民法といって私たちが生きていくうえで無くてはならない家族のことや財産のことなどについての法律がありますが、このことについての世界的な学者です。この研究が認められて、学者や芸術家などに贈られる日本での最高の賞「文化勲章」も受章されました。文化勲章制度がはじまって、もう七十年近くになりますが、この賞を山形県人としてもらった人は、まだ四人しかおりません。このことからしても、どれほど素晴らしい賞であるか、わかりますね。

我妻先生は、民法に関係する本などもたくさん書かれました。記念館にはその本をはじめ、手書きの原稿、いろんな賞状、さらに先生の生い立ちが分かる写真などをいっぱい展示しています。また、希望者には先生のことを撮ったビデオも見せますよ。

お友だち同志や家族づれで、ぜひ、いらっしやい。待っていますよ。

館長 今田久夫

# 我妻榮記念館

だより

## 第 6 号 小学生版

発行日/2004年3月31日

発行/我妻榮記念館事務局

☎992-0045

米沢市中央3-4-38

TEL 0238 24 2211

# 文化勲章受章・名誉市民でもある

## 我妻先生のことを学ぼう



まりでした。

米沢中学時代の同年生に浜田広介がおりましたが、このころから大の仲良しでした。広介は早稲田大学を卒業して童話作家となり日本のアンデルセンといわれるほど名作をたくさん創作しました。東京でも時々会っては、中学のこと、米沢地方のことなどを語っていたそうです。

### 子どもの時から良くてきた人

我妻榮先生は明治三十年四月一日に、四ページにある家で生まれました。父親の又次郎さんは米沢中学校（現在の興譲館高校）の英語の先生、母親のつるさんも興譲小学校の先生でした。兄弟は五人で、姉二人妹二人のまん中で、姉二人は興譲小学校で、姉二人は興譲小学校で、

した。成績はいつも一番という秀才でした。中学校を卒業すると東京の第一高等学校を受験しましたが、ここへも一番の成績で合格し、三年間学んだあと、こんどは東京帝国大学（現在の東京大学）の法学部へと進みました。ここで法律学を、三年間しっかりと学び、二十三歳で卒業しました。もちろん東京大学時代の成績も一位、悪くても二位止

いたそうです。

東京大学を卒業後も法律の研究を続け、二十五歳で東京大学の助教となり、その後、トントンの拍子で出世して三十歳で教授、四十



前列左から妹うめ、母つる、妹千枝子、父又次郎、姉元枝、後列榮、姉千代

八歳で法学部長になりました。我妻先生がひとすじに勉強した学問は法律で、その中でも民法が専門でした。民法という法律は、ちよつとむずかしいかも知れないけど親族や財産相続など、ひとり一人の権利を守るためにあるものなのです。あまりにも幅広いので、それを一人で研究して本にすることは、大へん困難なことです。我妻先生は殆んど一人でやったんです。

そういう努力が高く認められて、六十七歳の時に文化勲章という、日本では最高ともいっていいような勲章をもらいました。と同時に米沢市の名誉市民にもなされたのです。

今もいっぱい恩恵を受けています

受けています

東京での生活は、それこそ忙しい毎日でしたが、ふるさと米沢のことは少しも忘れませんでした。ちよつとの暇をみつけては米沢へ帰り、母校興譲館高校で講演をしたり、子ども新聞に大金を寄付して応援もしました。子ども新聞を発行している米沢児童文化協会では、その大金をもとにして、文化活動に活躍した小・中学生に「我妻児童文化賞」を贈ってきていて、ことし十一回目となりました。

また、文化勲章をもらったことをきっかけに、自分が貯めたお金を足して、母校興譲館高校に「財団法人白願奨学財団」を設立させて、生活に困っている生徒に奨学金をあげることもしました。もうひとつ、同じく母校である興

### 先生の生いたち

1897年	4月1日誕生
1903年	6歳 興讓小学校へ入学
1909年	12歳 米沢中学校（現在の興讓館高校）へ入学
1914年	17歳 東京の第一高等学校へ入学
1917年	20歳 東京帝国大学（現在の東京大学）へ入学
1920年	23歳 東京帝国大学卒業
1922年	25歳 東京帝国大学法学部助教授
1923年	26歳 民法研究のためアメリカ、イギリス、ドイツに2年間留学
1927年	30歳 東京帝国大学教授
1930年	33歳 左足首の病気で左足全体を護るためギブスをはめなければならなくなる
1945年	48歳 東京帝国大学法学部長
1956年	59歳 法務省の特別顧問
1957年	60歳 東京帝国大学を退官して名誉教授
1964年	67歳 文化勲章受章、米沢市名誉市民
1966年	69歳 母校興讓館高校に自分のお金を出して「財団法人白頼奨学財団」を設ける
1970年	73歳 母校興讓小学校の一室に「まがき文庫」を設ける
1973年	76歳 9月19日母校興讓館高校の創立記念式典に出席、その日我妻先生の胸像除幕式が行われる 10月21日急性胆のう炎が原因で熱海国立病院で死亡 勲一等旭日大綬章受章

自分には厳しく、他人には優しく

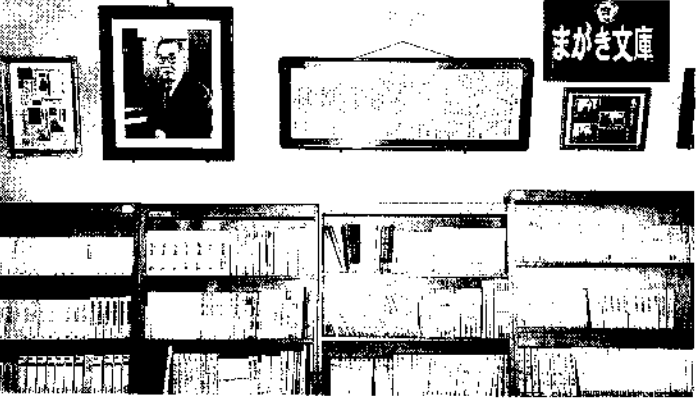
我妻先生は勇気があって自分には厳しく、他人にはとても優しい思いやりのある人でした。そのうえユーモアが

譲小学校に対しては、たくさんの本を寄贈して「まがき文庫」という図書室もつくりました。

このように我妻先生は世界的な民法学者であると同時に米沢のために多くのことをしてくれました。もう亡くなってから三十年にもなりますが、今なお恩恵をいっぱい受けているのです。

あるので、先生がいるところ、いつも明るい雰囲気にならまていました。趣味も多

特に魚釣りと囲碁が大好きで凄腕前でした。釣りは父親に教えてもらったもので、釣った魚を自分で料理して昔のことですからアヒルやニワトリは丸ごと自分の家で料理するものでしたが、その丸焼きは白慢料理のひとつでした。東京ではイナゴを採って佃煮にして食べたりました。



興讓小学校の一室に設けられた「まがき文庫」

東京にも六、七十年前まではイナゴがいたんですね。

そういう先生にも悩みがひとつありました。それは昭和五年の三十三歳の秋、家の前の田んぼでイナゴ採りをしていた時、どろにぬかって左足首をくじいてしまいました。すぐ大病院で治療をすれば良かったのですが、ほうっておいたものだから、だんだん悪くなり、数年後に左足の膝下までギブスをはめることとなり一生松葉杖の生活をしなければならなくなりました。しかし、先生は、そんなことに負けず、松葉杖について岡内ばかりでなく、世界中に出かけ研究をしたり講演をしました。強い人だったんですね。

### 堆肥型の人間になれ

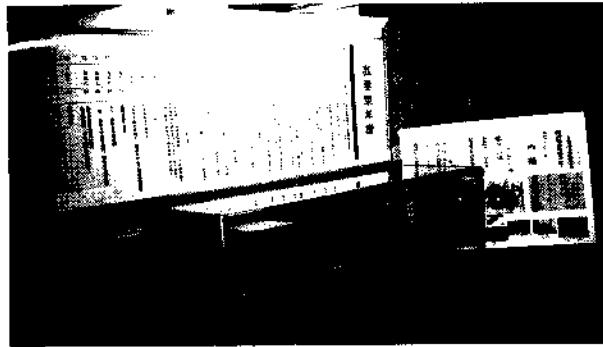
花や野菜を育てる時、肥料が必要です。そのことに例えて我妻先生は、興讓館高校での講演の時、次のようなことを語って生きる道を教えました。

一人間には若い頃は目立たないが、後になってりつぱになる。という人と、化学肥料のような長続きしない人がいます。田んぼに化学肥料をやると、すぐに利きますが、すぐに駄目になってしまふ。それに対して堆肥（糞などを腐らせてつくったもの）というものは、すぐには利かないが二年、三年とやっていると、だんだん利いてきて、おいしい米がとれるようになります。君たちは、この堆肥のようなタイプの人間になってください。と。コソコソと努力しなさい。という教えですね。我妻先生は興讓館高校で十回ほど講演されていますが、その内容を載せた本『母校愛の熱弁』も発刊されています。

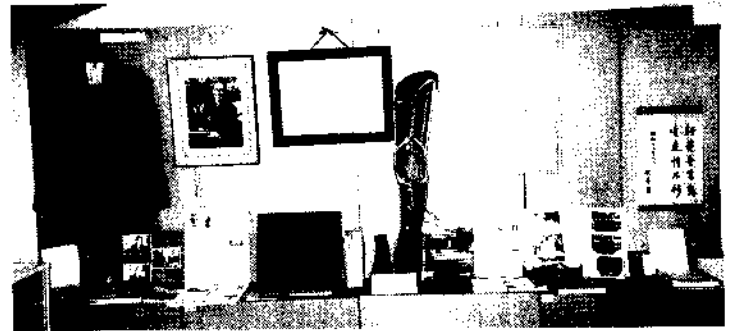
### 我妻先生の生家



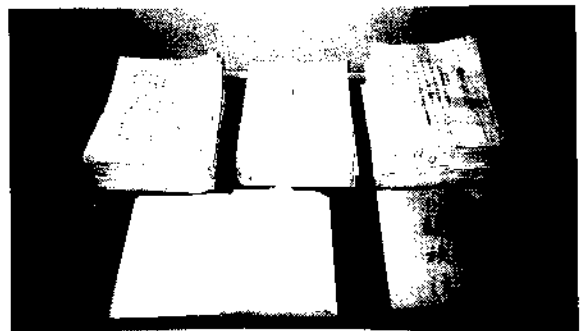
我妻榮記念館は平成4年6月にオープンしました。場所は中央3丁目（旧町名は鉄砲屋町）で「岩倉まんじゅう屋」さんの、すぐ近くにあります。我妻榮先生は、ここで生まれ、17歳まで住んでいました。その8年後ぐらいに家族ごと東京に引っ越しましたので、この家は他人の手にわたりました。平成2年になって、もう100年以上も経った古い家なので、とり壊されようとしたのですが、それを米沢有為会という会員1300人もいる団体が買って「我妻榮記念館」としたものです。



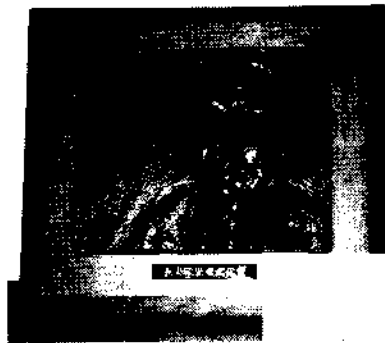
1階には年表や先生が書いた本を中心に



2階には、先生の身のまわりの品々が。中央にはギブス。



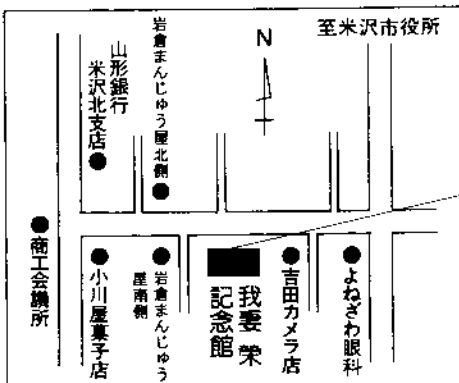
手書きの原稿



「我妻榮児童文化賞」に贈られるレリーフ

### お世話している人たち

管理人	運営委員	事務局長	館長	顧問	名誉館長
北村 清彦	本多 和彦	高橋 節子	佐野 清一	佐藤 英男	小林由紀子
				遠藤 拓	小関 久夫
				今田 久夫	松野 良寅
				(初代館長)	我妻 堯



**開館日**

いつもは  
土・日曜日  
午後一時～午後四時

月曜日  
午前十時～午後四時

**入館料 無料**

その他の曜日にご希望の場合は管理人まで連絡ください。できるだけ応じるようしております。